



みなさん、こんにちは。

業務紹介第2弾として機械・電気・情報分野のうち自動車関係の業務内容を、自動車局技術・環境政策課佐藤係員（入省3年目）より語っていただきました！



左は執務室の様子、右は自動運転の実証実験視察の様子  
（自動車局佐藤係員（入省3年目））

1. 機械・電気・情報分野のうち自動車関係業務の国交省における役割を教えてください。

国土交通省自動車局では、主に自動車の安全性の観点で仕事を行っており、業務内容は、自動車に関する安全基準の策定や、安全面で優良な自動車の購入補助など、多岐に渡ります。日本における自動車の保有台数が8000万台を超えているように、自動車は人々の生活の一部となっておりますが、利便性の裏腹に、悲惨な事故を起こしてしまうものでもあります。そのため、人々の生活の安全を守るために、自動車局が果たすべき役割は大きいところ、我々は強い使命をもって仕事に励んでいます。

2. 現在の目玉施策を教えてください。

自動車局の目玉施策は多くありますが、その中でも「自動運転」は世間の注目も熱く、大きな目玉施策と言えます。自動運転の導入目的として、利便性に着目されることが多いですが、ヒューマンエラーに起因する交通事故の防止、過疎地域における高齢者の移動手段の確保など、様々な社会問題の解決に資するものとして、自動運転には大きな意義があります。そのため自動車局では、自動運転を早期に、かつ安全に導入できるように、環境整備を推進しています。



3. ご自身が担当されている業務内容について教えてください。

まさに上記目玉施策で挙げた自動運転を担当しています。自動運転の業務は多岐に渡りますが、私はその中でも、主に移動サービスにおける自動運転（バスやタクシーなどを自動運転で代替するもの）の推進を担当しています。移動サービスにおける自動運転は、公共交通が不足している地方部における高齢者の移動手段確保などに資するものとして大きく期待されており、全国各地で実証実験が行われています。一方、実証実験に使用される車両の多くは、遠隔地からコントロールするなど従来の自動車の概念とは異なる仕様のため、自動車の安全基準に適合していないケースが多いことから、こうした車両でも安全に公道で実証実験が行えるよう、必要な措置について日々検討しています。

このほか、若手職員の代表的業務である「窓口業務」も担当しており、自動運転に関する外部（他省庁、国会議員など）からの依頼（資料作成など）に日々対応しています。

4. 苦勞する点や、やりがいについて教えてください。

（苦勞する点）

自動運転には、経済産業省や警察庁などの他省庁をはじめ、自動車メーカーやベンチャー企業など、異なるバックグラウンド、考え方を持つ関係者がいますので、調整には一苦勞が伴います。しかし、自動運転を早期に実現したいという強い気持ちはどの方も変わりませんので、多少の意見の食い違いがあっても、他者の意見を尊重し、一緒になって自動運転を推進するという気持ちで業務に励んでいます。

（やりがい）

世間も注目する自動運転の推進に、中心となって携われることが大きなやりがいです。自分が携わった内容は、新聞やニュースに取り上げられる機会が多いため、日々、自分の業務のスケールの大きさを実感するとともに、自動運転の実証実験が安全に実施され、実際に実用化されていく光景を見てやりがいを感じています。

5. 国土交通省を目指す方へのメッセージをお願いします。

国土交通省には、技術系職員が多く、その分だけ技術系が活躍できるフィールドが多くあります。今回は私が担当する自動運転を紹介しましたが、これ以外にも重要でやりがいのある仕事がたくさんありますので、少しでも興味を持たれた方は、業務説明会や OB 訪問などで具体的に話を聞いてみてください。ますます興味が深まると思います。皆様と一緒に働けることを楽しみにしています。